

W P S フォーカルポイント・ネットワーク東京会合
オープニングセッション
藤井副大臣挨拶

- 皆様、おはようございます。外務副大臣の藤井比早之です。W P S フォーカルポイント・ネットワーク東京会合の開会に当たり、主催国を代表して一言御挨拶申し上げます。
- 今年は、W P S に関する国連安保理決議第 1 3 2 5 号の採択から 2 5 周年に当たります。また、ここ東京に国連大学が設立されて 5 0 周年となります。
- この節目の年に、ノルウェーと共に W P S フォーカルポイント・ネットワークの共同議長を務め、国連大学にて東京会合を開催できることを大変光栄に思います。
- 過去四半世紀にわたり、W P S アジェンダの実施を推進するために多くの取組が行われてきました。そのための重要なツールとされる国家行動計画については、現時点で 1 1 2 か国が策定しています。
- 我が国は、ジェンダーの視点を防災、災害対応、気候変動、復興のあらゆる段階に取り入れることが重要と認識し、2 0 1 5 年に策定した第 1 次行動計画から現在実施中の第 3 次行動計画まで一貫して、紛争のみならず災害に関連する項目も計画に含めています。

- その背景には、我が国にとって未曾有の災害となった2011年の東日本大震災からの復興において、女性などの多様な視点を反映することの重要性を強く認識したことがあります。世界有数の災害発生国である我が国は、引き続き復興や防災に係る政策決定過程への女性の参画を拡大し、女性の視点にも立った復興・防災に取り組んでいきます。
- 一方で、国際社会に目を向ければ、和平交渉や平和構築プロセス等における女性の参画は依然として遅れ、世界で戦争が勃発・長期化し、自然災害も多発する中、女性はより危険な状況に置かれ、紛争下の性的暴力が増加するなど、女性の人権を巡る状況は後退しています。
- こうした現状に鑑み、共同議長の日本とノルウェーは、今年1年のテーマを「WPS 25周年：行動のためのコミットメントの深化」とし、WPSに関するコミットメントをしっかりと行動に移すことに焦点を当てて、フォーカルポイント・ネットワークの参加メンバーと共に活動していく考えです。
- この東京会合では、防災への適用推進を含む更なるWPSアジェンダの展開、和平調停・平和構築における女性の役割及び人権擁護者としての女性の役割、そして、国家行動計画・地域行動計画の策定及び実施を中心に議論し、着実に行動へとつなげていきたいと思っております。

- 我が国としても、この節目の機会にWPSアジェンダを更に国際的に推進するため、新たに約2百万米ドルを国連女性機関に拠出しました。これを通じて、アジア太平洋地域における行動計画策定やフォーカルポイント・ネットワークの事務局機能を支援します。
- また、今次会合はアジア太平洋地域で開催される初の首都会合であることを踏まえ、この地域におけるWPSの更なる推進へとつなげるべく、アジアを中心にフォーカルポイント・ネットワークの非メンバー国にも広く参加いただいております。
- 2日間にわたる東京会合での議論が、節目の年のキックオフとして有意義なものとなるよう心から祈念いたします。
- 最後に、この会合の開催に向けたノルウェー及び国連女性機関による多大な支援、昨年フォーカルポイント・ネットワークを牽引した米国、ルーマニア、スイス及び南アフリカに感謝の意を表しつつ、私の御挨拶とさせていただきます。
- 御清聴ありがとうございました。